

【別添2】（様式例2）

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜城北高等学校 学校番号 8

I 自己評価

1	学校教育目標	確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身を育み、一人一人の個性を伸ばし、社会の変化に柔軟に対応し、社会に貢献できる人材を育成します。		
2	スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP） ・主体的に多様な人々と協働して学び、生きて働く知識・技能を身に付け、課題を発見し解決に取り組む生徒 ・心身の鍛磨を図り、個性を尊重し、奉仕の精神を養い、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・社会の変化に柔軟に対応し、地域や社会の課題に取り組む、地域社会の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP） ・生徒一人一人がキャリアデザインを具体的に描き、自己実現が図れるよう、各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性を深化させるとともに、キャリア教育を推進 ・「主体的・対話的で深い学び」を推進し、知識・技能を習得させ、他者と協働しながら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度を育成 ・基本的生活習慣の確立と自他の生命を尊重する態度を育て、生徒一人一人の個性を伸ばし、深い学びを実現するための社会に開かれた教育課程の編成と個に応じた指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP） ・基本的生活習慣が身に付いており、向学心を持ち、学校行事、生徒会活動、部活動などの活動に積極的に参加し、多様な人と協働して学ぶことができる生徒 ・進路実現に向かって継続的に努力し、多様な学びや資格・検定、コンクールに主体的に取り組む、自らの可能性を拓く意欲のある生徒 ・部活動でスポーツ活動または文化活動で優れた能力を有し、入学後も継続して活動する意欲のある生徒
3	評価する領域・分野	◇教務部		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・熱心に学習指導に取り組んでいるという項目では86.5%、専門的知識や授業内容の信頼性に対する項目では87.8%、授業の教え方や説明が分かりやすいかの項目で83.2%と、いずれも80%を越えた。 ・授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人ひとりの能力に応じた指導を行っているかの項目では、82.7%と、昨年度に比べ8.8%増えました。 ・保護者に対するアンケートにおける肯定的評価がホームページでの情報発信が65.2%から79.2%へ、学校緊急連絡メールの活用が73.1%から94.8%へと上昇し高く評価された。		
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎的・基本的な学力の定着を図り、目的をもって自主的・主体的に学ぶ意欲や態度の育成を目指す。 ◇授業を大切にし、1時間の授業目標とまとめを明確にすると同時に生徒一人ひとりが授業で充実感をもてるような指導方法の工夫、分かる授業、活気溢れる授業、ICTを積極的に活用した授業に努める。 ◇あらゆる機会を通して、学習活動の重要性を認識させる。 ◇教育課程の研修を推進し、各学科の在り方、コース・系列における学習内容の充実と精選を図る。 ◇各教科・科目における評価規準の研究推進を図る。		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒が学習する意義を正しく理解し、意欲的に授業に参加するために、教材研究を十分に行い、創意工夫を重ね、生徒が分かる授業に向けて日々研鑽するための教科別会議の開催。 ・生徒にコース・系列・科目選択の重要性を正しく理解させ、進路目標にあったコース・系列・科目選択ができるように努める。		
7	目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)家庭学習時間調査を実施し、生徒の学習に対する意識を高め家庭学習習慣の確立へとつなげる。 (2)分かる授業を目指して教員間で授業を公開し、意見交換を通して授業改善に努める。 (3)日々の授業を振り返り、分かる授業に向けて研鑽を重ねる。		(1)家庭学習時間調査 (前期中間考査前と前期期末考査前) (2)公開授業週間（5月・10月）各2週間 (3)生徒による授業評価（6月・11月）		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
①家庭学習時間調査 ②教員相互の公開授業週間（5月16日～27日） （10月24日～11月4日） ③授業評価（6月6日～10日） （11月21日～25日）		①ひとり平均 1日 82.1分 （令和3年度 84.0分） ②ひとり平均 2.1人の参観 （令和3年度 2.2人） ③各教科80%以上の肯定的評価	A B C D A B C D A B C D	
12 成果・課題	○熱心に学習指導に取り組み、専門的な知識が豊富で授業内容が信頼できると多くの生徒に評価されている。 ▲ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、学習の理解につながっているに対して肯定的評価が、78.8%と16.1ポイント上がりました。学習指導全体の肯定的評価は82.0%と10.7ポイント上がり、授業でのICT活用が分かりやすい授業につながっていると感じている。しかし、これからも個々の生徒を十分に理解したうえで、生徒の個性を踏まえた学習指導と十分な教材研究が必要となってくる。		総合評価 A B C D	
13	来年度に向けての改善方策案 ・本年度教育指導の重点及び学校経営計画では、生徒による学校評価（学習指導の項目）の肯定的意見が80%以上となることを目指してきた。しかし昨年度71.3%と肯定的評価であったが、本年度は82.0%と増加した。来年度も、80%以上を達成するために以下の2点に力を入れていきたい。 ・ICTを使った教材研究を十分にできる時間を確保し、生徒一人ひとりがタブレットを使った学習をすることで、授業が分かる喜びを感じることでできる学習指導へとつなげていきたい。 ・ICT研修を積極的に推進していく体制を、継続的に計画し、実施していきたい。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和 年 月 日

【意見・要望・評価等】
・
・
・
・
・

